

## 第172回幹事会議事要旨

日時 平成25年4月23日(火) 13:30~15:30  
場所 日本学術会議大会議室  
出席者 (会長) 大西 隆  
(副会長) 小林 良彰、家 泰弘、春日 文子  
(第一部) 佐藤 学、大沢 真理、後藤 弘子、丸井 浩  
(第二部) 山本 正幸、生源寺 眞一、長野 哲雄  
(第三部) 荒川 泰彦、巽 和行

---

(事務局長) 齋藤 敦  
(事務局次長) 飯島 信也  
(課長等) 渡邊 清、長谷川 和好、中澤 貴生、石原 祐志、佐藤 正一

### 審議事項等

- 1 前回議事要旨の確認が行われた。
- 2 前回の幹事会以降の諸報告事項について確認が行われた。
- 3 以下の公開審議が行われた。
  - (1) 東日本大震災復興支援委員会運営要綱の一部改正及び分科会委員(4分科会)が決定された。
  - (2) 科学者委員会運営要綱の一部改正(新規設置1分科会)が決定された。
    - 新規設置
      - ・組織運営等検討分科会
  - (3) 分野別委員会運営要綱の一部改正(新規設置2分科会・1小委員会、廃止2分科会)及び分科会等委員(4分科会、1小委員会)を決定した。
    - 新規設置
      - ・社会学委員会 社会学分野の参照基準検討分科会
      - ・地域研究委員会 地域研究基盤整備分科会 地域研究における教育の「質保証」検討に関する小委員会
      - ・政治学委員会 政治学分野の参照基準検討分科会
    - 廃止
      - ・心理学・教育学委員会 「21世紀の大学」分科会
      - ・心理学・教育学委員会 高校教育改革検討分科会
  - (4) 移転検討委員会における委員を決定した。
  - (5) 東日本大震災に係る学術調査検討委員会における委員を決定した。
  - (6) 科学者に関する国際人権問題委員会における委員を決定した。
  - (7) 日本学術会議改革検証委員会における分科会委員(学術会議改革自己点検分科会)を決定した。
  - (8) 原子力利用の将来像についての検討委員会における分科会委員(原子力発電の将来検討分科会)を決定した。

- (9) 大学教育の分野別質保証委員会における委員及び分科会委員（企画連絡分科会）を決定した。
  - (10) 選考委員会における委員を決定した。
  - (11) 提言「災害に対する社会福祉の役割—東日本大震災への対応を含めて—」について、社会学委員会社会福祉学分科会の白澤政和委員長、岩崎晋也副委員長より説明があり、審議の結果、所要の修文を条件に承認された。
  - (12) スウェーデン若手アカデミーとの交流（Sweden-Japan National Young Academy Meeting in Stockholm）へ若手アカデミー委員会委員を派遣することを決定した。
  - (13) “Global Platform for Disaster Risk Reduction”会議へ会長を派遣することを決定した。
  - (14) 第13回アジア学術会議（13th Science Council of Asia Conference）へ会員を派遣することを決定した。
  - (15) ラオスのアジア学術会議（Science Council of Asia）への新規加盟について推薦国となることを決定した。
  - (16) 日本学術会議協力学術研究団体の指定（5団体）が承認された。
  - (17) 平成25年度各地区会議事業計画が承認された。
  - (18) 地区会議構成員の所属地区の変更を決定した。
  - (19) 18件のシンポジウム等の開催、2件の国際会議及び1件の国内会議の後援を決定した。
  - (19) 野口英世アフリカ賞受賞記念講演会の主催を決定した。
- 4 その他事項として、今後の幹事会開催日程について確認が行われた。
- 5 以下の非公開審議が行われた。
- (1) 若手アカデミー委員会における分科会委員（特任連携会員）が決定された。
  - (2) 東日本大震災復興支援委員会における分科会委員（特任連携会員）が決定された。
  - (3) 分野別委員会における分科会委員（特任連携会員）が決定された。  
特段の事情を考慮し、1分科会につき複数名の特任連携会員が決定されたのは以下の分科会となる。
    - ・地域研究委員会 国際地域開発研究分科会  
（主に研究者として活躍しつつ実務にも精通した人材と、主に援助機関で業績を上げつつ学術研究にも造詣の深い人材が、いずれも不可欠であるため）
    - ・総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会  
（現在、中国に遺棄された化学兵器の廃棄処理が本格化のフェーズに入っており、その分野の専門家として審議への参加が不可欠であるため）
  - (4) 外部委員候補者の推薦が決定された。